

令和4年度学校評価総括表

斑鳩町立斑鳩小学校

<p>教育目標</p>	<p>「らんらん(爛々)」 語彙は、きらきら輝くさま。『瞳輝かせ、笑顔であいさつし、生き生きと自ら学ぶ子の育成』を教育目標として象徴的に表す。</p>			<p>総合評価</p>
<p>教育方針</p>	<p>本校の教育は、「日本国憲法」・「教育基本法」に定められた教育の根本精神に基づき、奈良県教育委員会の「学校教育の指導の重点」をふまえ、斑鳩町教育委員会の指導のもと、積極的な教育実践を推進する。 教室の窓から、ユネスコ世界文化遺産リストに日本で初めて登録された法隆寺が見えるという位置にある斑鳩小学校は、今年で創立135年。「斑鳩町教育理念—育てよう和の心—」に基づき、豊かな人間性と創造性を備えた、将来に持続可能な力を持ち、社会の発展に貢献する人間の育成に努める。</p>			<p>B</p>
<p>学校経営ビジョン</p>	<p>めざす学校像</p>	<p>めざす教師像</p>	<p>めざす児童像</p>	
	<p>○あいさつがこだまする学校 ○優しさがあふれる学校 ○児童が生き生き活動する学校</p>	<p>○わかる授業を創造する教師・・・(創造・意欲) ○日々研鑽と修養を志す教師・・・(進取の気質) ○笑顔で接し、児童と共に歩む教師 ・・・(明朗・児童理解) ○厳しくも心温かく導く教師・・・(愛情・情熱) ○家庭を理解し、地域にとけ込む教師 ・・・(地域連携)</p>	<p>○自ら学ぼうとする子・・・・・・・・(知) ○互いを認め支え合う子・・・・・・・・(徳) ○元気な子・・・・・・・・(体) ○夢をもち、たくましく生きる子・・・(夢) ○斑鳩を愛する子・・・・・・・・(誇)</p>	
<p>前年度の評価と課題</p>		<p>今年度の重点目標</p>		
<p>○教育活動に制限はなかったが、できる範囲でできることに、本校なりの方法で取り組むことができた。今年度は、以前できていた状態にできる限り戻れるよう努力していく。 ○8と5のつく日を「バゴの日」として設定し、「バゴの日は家庭学習の日」という意識が定着しつつある。タブレットの家庭での活用も進んでいる。 ○不登校児童への対応については、保護者との連絡を密にし、関係機関との連携を図りながら、継続的に対応することができていた。 ○ICTを活用し、仕事の効率化は進んでいる。ただ、業務が軽減されたという実感はなく、教職員の意識改革は未だ途上である。 ○保護者・地域の方々から様々な意見をいただいた。意見を受け入れ、学校教育の改善に努めていく。</p>		<p>○『自ら考え、生き生きと学び合う児童の育成』を図る。 ○児童理解を図り、課題解決に向け組織的・計画的な対応を進める。(不登校・配慮の要する児童等) ○認め合い、なかまとともに向上しようとする集団づくりをすすめ、心と体の教育の充実を図る。 ○学校だよりを活用して児童の校内での様子を家庭に伝え、保護者・地域と連携して教育目標の達成を図る。 ○効率化に基づいた働き方改革を推進する。</p>		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価		成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
学力の向上	「主体的・対話的で深い学び」につながるよう授業改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○「自ら考え、生き生きと学び合う児童の育成」の主題のもと、問いづくりと振り返りの充実を通して授業改善、授業力向上を図る。 ○ICTを活用した授業を行う。 ○全国学力・学習状況調査問題の結果を分析し、本校児童に必要な学力を見極める。 ●教職員アンケートにおいて、85%以上の肯定的な評価をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○複数回の研究授業、研究協議、研修により、授業における問いづくりと振り返りの学習は、児童に定着してきた。積極的に学習に参加していく姿勢は、育ってきた。 ○どの学年でもICTを授業の中で活用することができた。 ○学習課題を見極め、全学年で読解力の向上を図っていく。 ●主体的、対話的で深い学び教職員83.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、問いづくりと振り返りを授業中取り組んでいき、子どもたちが自ら考え、互いに意見交換を行い学び合う姿勢を大切にしていきたい。対話的な学びを今後も取り組んでいく。 ・各種調査結果から分かった児童の課題に基づき、授業改善を行っていきたい。 ・授業を改善して読解力向上を図り、児童の学力を向上させていく。 	子どもたちの基礎学力の伸長を今後も継続して行ってほしい。自分で考え粘り強く取り組む力や文字を書く機会を大切にしていきたい。
	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の時間に基礎的な学習に取り組み、基本的な学習内容の定着を図るとともに、学ぶ習慣を身に付けさせる。 ●児童・保護者・教職員アンケートにおいて85%以上の肯定的な評価をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業開始前に基礎的な学習に取り組んでいくことは、子どもたちに習慣づけることができている。 ○取組の結果、学習状況調査では、言語領域において向上みられた。 ●基礎学力の定着教職員94.4%保護者85.9%児童91.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果も踏まえて今後も、朝の時間に基礎的・基本的な学習を継続して行っていく。今後も、基礎学力の定着を図っていく。 	朝の学習は、習慣づける取組として評価できる。朝に基礎基本の取組を続けるのは良いことだと思う。
	ALT英語教員と共に外国語・外国語活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動として英語学習に取り組み、簡単な英会話を使って自分の気持ちを伝えることができるようになる。 ●児童アンケートにおいて80%以上の児童が「英語の学習は好き」と答える肯定的な評価をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○担任とALTが共同して、指導法の開発や教材の準備を行い、英語教育の推進を図っている。 ●意欲的に英語を学習する。児童77.4% 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任とALTで共同して指導法の開発に努め、授業改善を進めていく。 ・アセスメントテストの結果を分析し英語力を高めていく。 	英語を学習することは難しいと感じさせない、学ぶことが楽しいと感じる授業を行ってほしい。
	家庭学習の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○「バゴの日」など、家庭学習の啓蒙を引き続き行う。 ○タブレットを活用して、家庭での学習を進めていく。 ●「家庭学習に関するアンケート」を実施し、家庭学習の実態を把握する。90以上【A】 80～89%【B】 70～79%【C】 70%以下【D】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な機会に家庭で一定時間、学習することが大切なことを伝えてきた。保護者も家庭学習の重要性を理解して下さっている ○今年度も8と5のつく日を「バゴの日」として設定し、家庭学習を啓発した。 ●家庭学習の充実保護者90.4% 児童89.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習が大切なことが家庭に定着し、浸透してきている。タブレットを家庭に持ち帰らせ、種々のアプリを活用して学習していくことを今後も続けていきたい。 	家庭での学習でも本を読む時間が増えるようにしてほしい。図書ボランティアとの連携が大切だと思う。

健やかな心の育成	児童相互、児童と教師との関わりを大切に、豊かな人間性の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートを計画的に実施し、その後スクリーニング会議を開き、スクールカウンセラーも交えて、今後の対応について検討していく。 ○ 不登校傾向をはじめ配慮を要する児童に対し、組織的・計画的な対応に努める。 ○ なかまとともに成長しようとする児童の育成のため、特別活動部を設け、縦割り班活動を充実させる。 ● 児童・保護者・教職員アンケートにおいて85%以上の肯定的な評価をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年2回アンケートを実施、結果を確認して事後指導を行っている。いじめの早期発見、対応、未然防止に努めている。 ○ 月1回、生徒指導部会を開いている。課題を持つ児童の事例を確認し、全職員が情報を共有することとしている。 ○ 不登校傾向をはじめ配慮を要する児童に対し、関係者でよく話し合い、担当が児童、保護者との連絡を密にとって対応している。 ● いじめ対応の取組、児童の意識 教職員100% 保護者66% 児童99.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後もいじめのアンケートは継続して実施していく。いじめを認知したら早急に調査を始め、児童間で話し合いの機会を設け、解決に向けて取り組んでいく。「いじめはいけない」ことを子どもたちにしっかりと認識させていく。 ・ 不登校は簡単に解決できるものではない。児童、保護者と関係が疎遠にならないように粘り強く対応していく。 ・ 計画的に縦割り班の活動を行っている。 	引き続き関係機関や家庭との連携を強化してもらいたい。不登校児童への対応もこれまで通り、丁寧に取り組んでほしい。
	AKRを合言葉に「あいさつ」「けじめ」「礼儀」ができる児童の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ すすんであいさつすること、廊下歩行など、教職員全員が共通理解を図りながら、徹底して指導する。 ○ 3年生の総合的な学習の時間や必修クラブに「能」の学習を取り入れる。 ● 規範意識に関する児童・保護者・教職員アンケートにおいて、85%以上の肯定的な評価をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の挨拶など、地域の方々にも協力していただき、挨拶を行うことが大切なことを児童に普段から指導している。 ○ 「能」の学習については、今年度も3年生が総合的な学習の時間に計画的に取り組むことができた。 ● あいさつ 教職員94.4%保護者72.7%児童92.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで挨拶ができるよう指導を続けていく。普段からの指導が実り、正しい廊下歩行ができていく。力を緩めることなく指導を続けていく。 ・ 「能」の学習は今後も継続して取り組んでいく。指導法など、能楽師から研修を受ける機会を大切にしていく。 	登下校にて、子どもたちと挨拶を交わす機会は、以前より増えてきたように感じている。挨拶の大切さを教えるうえで、大人が手本を見せることは大切である。
	教育活動全体で道徳的心情を育み、規範意識と道徳的実践力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「特別の教科 道徳」の時間に意見を共有しながら学習するだけでなく、教育活動全体で道徳教育に取り組む。 ○ 自己肯定力の向上だけでなく、自他を大切にすることを中心に、人権教育に取り組む。 ● 児童・保護者・教職員アンケートにおいて85%以上の肯定的な評価をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の学習にて、規範意識だけでなく、自他を認め合うこと、自尊感情を高めていくことなどを、意見を交換、共有しながら学習を進めることができた。 ○ 普段から、自他を大切にすることを大切にして人権教育に取り組んだ。 ● 自分や友達を大切にする 教職員88.8%保護者82.4%児童99.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「特別の教科 道徳」を授業だけでなく、教育活動全体で取り組むようにする。 ・ 人権教育の取組で自分を大切にすること、他者を大切にすることを育成していく。 	規範意識の向上は、学校の様々な活動を通じて継続して行ってほしい。人を大切にすることを上級生は自覚してほしい。
たくましく生きるための健康・体力づくりの推進	運動好きな児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に声をかけ、体育の授業や休み時間等に、多様な運動に取り組ませ意欲的に屋外で運動できるようにする。 ● 85%以上の児童が「体を動かして遊んでいる」と答える肯定的な評価をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの児童が外で元気よく遊ぶ姿が見られた。走ろう会では、朝の時間を利用して体力向上に務めた。 ● 体力向上の取組 教職員77.8%保護者89.9%児童78.4% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外に出て遊ぶことの大切さを児童に伝えていくとともに、教員もともに外に出て遊ぶ機会を多く持つていく。 ・ 体力向上につながる行事を継続して実施していく。 	今後制限なく活動できるようになる。体力向上に努めてほしい。
	体力向上に向けた体育の授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力テストの結果を分析し、体力向上プランをもとに、体育の授業改善につなげる。 ● 児童アンケートで85%以上の児童が「体育の授業が楽しい」と答える肯定的な評価をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの子も意欲を持って運動できるように教材、教具を開発した。体を動かす時間が多くとれるよう授業改善を行った。 ● 体育の授業が好き 児童79.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テストの結果から、児童に必要な体力を見極め、体力の向上につながる運動を授業中に取り組んでいく。 	運動に楽しんで取り組める授業を引き続き行ってほしい。
	健康的な生活習慣を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健日よりや給食日より等を通して健康教育と食育を推進する。 ● 児童・保護者・教職員アンケートにおいて、85%以上の肯定的な評価をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健日より、給食よりを発行して、保護者に健康、食の大切さを伝えている。 ○ こまめな換気、手洗いの徹底により、感染防止に務めた。 ● 健康教育の推進 教職員66.7% 保護者88.4% 児童76.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の健康面の課題や改善点を様々な機会に保護者に伝え、生活習慣の改善について啓蒙していく。 	給食の地産地消の取組はとても良いことだと思う。

特別支援教育	配慮を要する児童に対し、個々の実態に応じた適切な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員間で共通理解を図るため、児童理解の研修を適宜行う。 ○通級指導教室と連携を図りながら、支援体制を充実させるとともに、個別の支援計画に基づいた指導を行う。 ●教職員アンケートで85%以上の肯定的な評価をめざす。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○職員研修として、特支学級在籍児童の児童理解を定期的に行った。 ○ケース会議を行う際、通級指導教室と連携し、支援方法の視野を広げて考えることができた。 ●合理的配慮に努めている。 教職員100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級で学習する時間の見直しが行われる中、通常学級で学習する児童の中に集団の中での学習において支援の必要な児童が目立ってきている。児童支援について、研修していかなければならない。 	関係機関や保護者と連携し、きめ細やかな支援を行ってほしい。
安全管理	事故等を未然に防ぎ、児童が充実した学校生活を送れる環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が危機管理意識をもち、施設設備の安全点検、児童の健康状態、学校行事の見直し等を通して、ヒヤリハットの情報共有に努め、事故を未然に防ぐ。 ○登下校の指導や通学路安全点検、不審者情報の提供、ボランティアとの連携を図る。 ○緊急下校訓練や不審者の侵入を想定した訓練を定期的に行う。 ●保護者アンケートにおいて、85%以上の肯定的な評価をめざす。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○安全点検を定期的に行った。校舎の老朽化に伴う不具合には、関係機関と連携して早急な対応に務めた。 ●環境整備、施設設備の整備 教職員94.4% 保護者75.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故を未然に防ぐためにも、平日頃から、危機管理意識を持っておく。 ・情報共有に努め、即座に対応できる体制を準備しておく。 	教育委員会とよく連携して改善をはかってほしい。
			A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○見守りボランティアと連携し、子どもたちが安全に登下校できるように務めた。通報があった時は、現場に駆けつけ安全対策を講じた。 ○計画的に様々な状況に備えた訓練を行うことができた。 ●安全な登校 保護者93.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と情報を共有し、児童の安全確保に努めたい。 ・安全性を高めていくため、更なる安全管理、安全教育を進めていく。 	子どもたちが安全に登下校できるように努めてほしい。児童が自分で考えて行動できるよう指導してほしい。

教員の育成	教員の指導力を向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人面談、グループ討議により、個々の教員の課題を明確にする。 ○ 教員との面談、自己申告シートに基づいて指導助言を行い、授業力の向上を図る。 ● 教室で学習する児童の様子を観察し、課題を確認した後、今必要とされる指導を行い、教育効果を高めていく。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の今年度の課題を聞き、ともに考え参考にしたらよいことを伝えることができた。 ○ シートの書かれている課題をどのように解決していくのかをきき、授業力が向上するよう助言していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導力向上を図るためにも、教員同士が常日頃から教授法について情報交換を行える環境を構築していく。 ・ 研究テーマに基づいた授業づくりを進めていく。 	教員から情報を集め、改善策についてしっかり討議してほしい。教員の指導力が向上することを望んでいる。	
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業研究等を中心とした校内研修を組織的にを行い、一人一人の教員の指導の向上を図る。 ● 年5回以上の研究授業を実施する。 ● 学年ごとに行うブロック公開をさらに能動的、継続的に取り組む。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画的に授業研究が行われ、研究協議では、建設的な意見が活発にかわされた。 ○ 学校全体のテーマに沿った研修が定期的に行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主的に研究授業を公開し、指導力向上に努めていく。 ・ 授業後の研究協議で活発に意見交換を行い、指導法についての研究を深めていきたい。 	子どもたちのためによりよい指導ができるよう引き続き頑張りたい。	
	教育の質の向上に向けたICT活用教育を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 推進リーダーを中心に、スキル向上や利活用の工夫に関する研修会を行う。 ○ 一人1台のタブレット端末の有効活用を図る。 ● 全教職員がタブレット端末等ICT機器の活用能力を高め、利活用率を80%以上にする。 ● 情報モラルの授業を年1回は行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究を進めていく中で、有効なICTを授業中に取り入れていった。 ○ 低学年から高学年まで、徐々に抵抗なくタブレット端末を利用できるようになってきた。 ● タブレット端末の活用 教職員100% 保護者76.2% 児童93.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の中でICTを活用できる場面の意見交換を行い、情報を共有していく。 ・ タブレットを活用した授業についての研修を進めていく。 	タブレット活用についての研修は大切だと思う。授業中、使用する機会を増やしてほしい。子どもたちの学習意欲を高めてほしい。	
保護者、地域との連携	積極的な情報発信と情報提供に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭訪問、電話連絡、連絡帳、学級だよりなどを通して保護者との連絡を密にする。 ○ 学校の教育活動をwebページや学校だよりなどを活用して広く発信する。 ● 保護者・教職員アンケートにおいて、85%以上の肯定的な評価をめざす。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のことにについて、保護者と電話連絡家庭を訪問して連携を密にしてきた。 ○ 定期的に学校だより、学年通信を発行し校内の様子を家庭に伝えるように努力してきた。 ● 保護者、学校との連携、情報発信 教職員88.9% 保護者92.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も学校だより、学年通信などで積極的に情報を発信していく。 ・ 保護者との連絡を密にして、保護者との信頼関係を構築していく。 	HP等で保護者や地域の方々に、もう少し、学校の様子を発信してみたい。	
	地域の人材や関係機関との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要な支援を吟味し、PTA新聞等で広報し、人材の確保を図る。 ○ コミュニティ協議会を年2回開催し、意見を集約し、地域の方々と共に学習活動を高めていく。 ○ 地域の方々の協力を得て、地域への貢献に努めていく。 ● 保護者アンケートにおいて、85%以上の肯定的な評価をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援ボランティアでは、本の読み聞かせ活動が、よく行われた。 ○ コミュニティ協議会を2回開催し、地域の方々の活動が有効に行われたことを確認できた。 ○ 次年度から学校運営協議会を立ち上げていく予定である。 ● 積極的なボランティア活動 保護者48% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方々にご協力いただき、学校運営協議会を立ち上げ、円滑にコミュニティースクールへと移行できるよう準備を進めていきたい。 	教職員との交流の機会を増やしてほしい。登下校の安全を確保するには地域の方々、自治会との情報共有も大切だと思う。	
業務改善	教職員の働き方改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の本来の業務内容を再確認し、子どもたちへの指導に、集中できるよう、業務改善を行っていく。 ● 教職員アンケートにおいて、働き方改革について80%以上の肯定的な評価をめざす。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校務支援システムやgoogleアプリの活用により、効率化を進めることができた。特に時間管理の意識は高まってきた。業務内容の再確認を今後も行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システム、ICTの活用についての研修を深め、更なる業務の改善を進めていく。 ・ 時間の有効利用など、今後も業務改善についての意識改革を行っていく。 	コロナ禍にて、働き方も大きく変わった。改良されたことを取り入れ業務改善を継続して行ってほしい。